

2022年3月期 決算概要

2022年5月12日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



CAFOの武藤でございます。2022年3月期 期末決算の概要を説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

テルモ株式会社 IR室

E-mail: kouhou_terumo01@terumo.co.jp

ハイライト

■ Q4/Q4累計実績

- 売上収益：海外が売上を牽引し、過去最高。国内は感染制御製品の需要が一巡
- 調整後営業利益：年初に想定していたマイナス影響に加え、インフレや工場における操業度低下があったものの、海外売上の好調と為替の寄与により、累計で前期比+16%の増益

■ FY22業績予想

- 売上・利益ともに二桁伸長
- コロナ影響からの回復と、各カンパニーの成長ドライバーによる牽引。為替も寄与し、売上・粗利益が増加。インフレ影響は通期で残るも、終盤には幾分緩和されると期待

まず始めに、決算のハイライトをまとめました。

売上収益は、国内は感染対策製品の需要が一巡する等、微増となりましたが、為替を含み海外が牽引して、Q4単体・累計ともに、過去最高となりました。

調整後営業利益は、年初に想定していたマイナス影響に、インフレや工場操業度低下による影響が加わったものの、海外売上の好調と為替の寄与により、通期では前期比プラス16%の増益となりました。

22年度の業績予想については、売上・利益とともに二桁伸長を見込んでいます。

売上収益は、全体としてコロナ影響から脱して、症例数等の需要は回復する前提に立ち、各カンパニーの成長ドライバーが牽引します。為替もプラスに寄与する見通しです。

インフレ影響は通期で残るものの、終盤には幾分緩和されると期待しています。そのため、売上総利益も増加の見込みです。

P&L実績

売上収益：四半期及び年度として過去最高。海外における心臓血管、特にTISの需要回復が継続。Q4はTIS・ニューロが好調、為替もポジティブに影響

調整後営業利益：予定していた生産調整、中国入札に加え、インフレ影響、工場における操業度低下によるマイナス影響があったものの、海外売上の好調と為替の寄与により、累計で前期比+16%の増益

金額 (億円)	FY20 Q4累計	FY21 Q4累計	増減率	為替除く増減率	FY20 Q4	FY21 Q4	増減率
売上収益	6,138	7,033	15%	10%	1,652	1,798	9%
売上総利益 (%)	3,266 (53.2%)	3,693 (52.5%)	13%	8%	854 (51.7%)	905 (50.3%)	6%
一般管理費 (%)	1,795 (29.2%)	1,991 (28.3%)	11%	6%	488 (29.5%)	528 (29.4%)	8%
研究開発費 (%)	491 (8.0%)	518 (7.4%)	6%	2%	132 (8.0%)	144 (8.0%)	9%
その他収益費用	3	-25	-	-	-2	-18	-
営業利益 (%)	984 (16.0%)	1,160 (16.5%)	18%	12%	231 (14.0%)	215 (12.0%)	-7%
調整後営業利益 (%)	1,159 (18.9%)	1,344 (19.1%)	16%	10%	274 (16.6%)	273 (15.2%)	-1%
税引前利益 (%)	971 (15.8%)	1,145 (16.3%)	18%		221 (13.4%)	215 (11.9%)	-3%
当期利益 (%)	773 (12.6%)	888 (12.6%)	15%		187 (11.3%)	171 (9.5%)	-8%

期中平均レート(USD/EUR)

106円/124円

112円/131円

106円/128円

116円/130円

©TERUMO CORPORATION

4 / 28



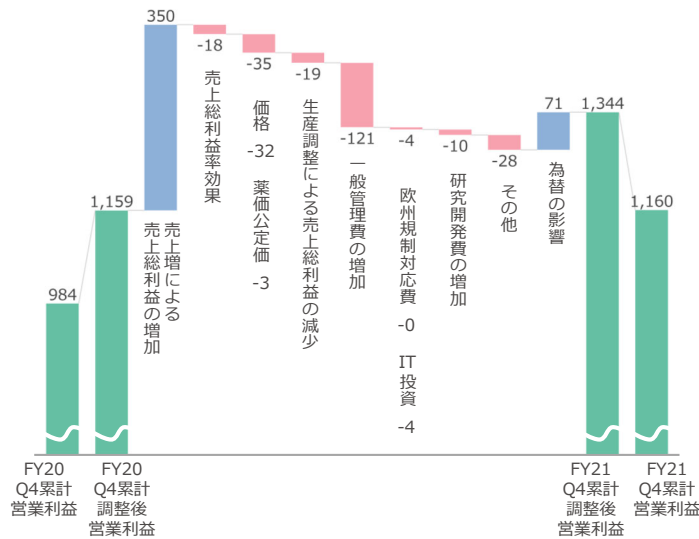
21年度の通期、およびQ4単体の実績です。

売上収益は、四半期そして年度としても過去最高でした。海外の心臓血管カンパニー、特にTISのコロナからの需要回復がQ4まで継続し、Q4単体ではニューロも好調でした。為替もプラスに働きました。その結果、Q4単体で1,798億円、通期で7,033億円となりました。

調整後営業利益は、年初に想定していた安全在庫に対する生産調整や、中国入札による価格ダウンに加えて、インフレ等のマイナス影響がありましたが、海外売上が好調で、為替も寄与し、通期で前年比16%の1,344億円となりました。またQ4で粗利低下がありましたが、これは期末為替の急激な変動による棚卸資産未実現利益へのマイナス影響と、グローバルでの生産再編に伴う先行的な費用によるもので一時的な要因です。

調整後営業利益増減分析（Q4累計）

（億円）



- 売上増による売上総利益の増加：
コロナ影響を受けたFY20との比較では、
心臓血管を中心に全カンパニーで増収
- 売上総利益率効果：
TISを中心とした心臓血管の売上増によるミックス改善
効果を、インフレ（輸送費・原材料費・労務費の高騰）
と工場における操業度低下のマイナス影響が上回る
- 価格：
主に中国でのTIS製品入札による価格下落
- 一般管理費の増加：
コロナ影響で費用進捗の遅れたFY20との比較では
大きく増加
- 為替の影響：
中国元・ユーロによるフローへのポジティブ影響を、
ドル・ユーロによるストックへのネガティブ影響が一部相殺

©TERUMO CORPORATION

5 / 28

TERUMO

通期における調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」について、コロナ影響のあった前年度との比較では、全カンパニーが増収、350億円のプラスとなりました。

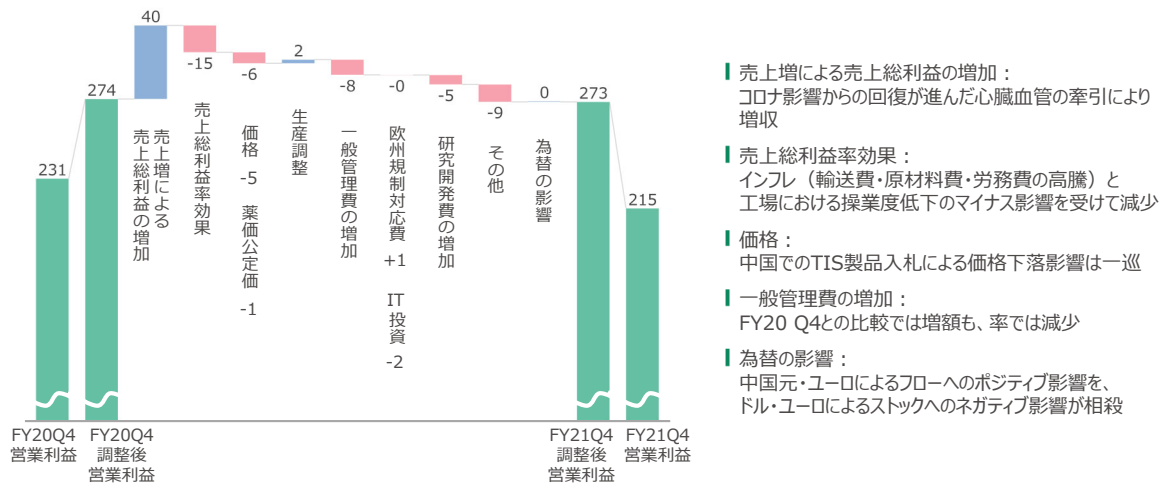
「売上総利益率効果」は、TIS事業が牽引した心臓血管カンパニーの売上増による製品ミックスの改善効果を、インフレ等のマイナス影響が上回る結果となり、マイナス18億円となりました。

「価格」や、活動の少なかった前年度との比較では増えると思込んでいた「一般管理費の増加」等は、年初の想定通りの結果です。

「為替の影響」は、中国元高とユーロ高がフローにおいて大きくプラスに働きましたが、期末における急激な円安による棚卸資産未実現利益へのマイナス影響が、その一部を相殺しました。

調整後営業利益増減分析（Q4）

（億円）



- 売上増による売上総利益の増加：
コロナ影響からの回復が進んだ心臓血管の牽引により増収
- 売上総利益率効果：
インフレ（輸送費・原材料費・労務費の高騰）と工場における操業度低下のマイナス影響を受けて減少
- 価格：
中国でのTIS製品入札による価格下落影響は一巡
- 一般管理費の増加：
FY20 Q4との比較では増額も、率では減少
- 為替の影響：
中国元・ユーロによるフローへのポジティブ影響を、ドル・ユーロによるストックへのネガティブ影響が相殺

©TERUMO CORPORATION

6 / 28

TERUMO

こちらはQ4のみの調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」について、コロナからの回復が進んだ心臓血管カンパニーが牽引して、40億円のプラスとなりました。

一方で、「売上総利益率効果」は、インフレ影響がプラス効果を上回り、マイナス15億円となりました。

「生産調整」は需要の回復により一段落となりプラス、この生産調整について、製品在庫が為替影響を除きほぼコロナ前の19年度末在庫月数と同等レベルとなりましたので、22年度からは市場動向を鑑みつつ適切に在庫管理を実施していくこととなります。そして「一般管理費の増加」は、活動の少なかった前年度との比較では額が増えていますが、対売上比率は下回ることができました。インフレによる収益性悪化を懸念して発動した費用コントロールの効果が出ました。「為替の影響」は、累計で説明した通りですが、Q4ではフローのプラスを、ストックのマイナスが完全に相殺する形となりました。

地域別売上収益

(C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー、PS: ファーマシューティカルソリューション)

FY21 Q4累計 地域構成比	売上収益 (億円)		FY21 Q4累計 前年増減率 ()内は為替影響除く	コメント
	Q4累計	Q4		
29%	日本			
	FY19	1,963	485	
	FY20	2,018	534	2%
	FY21	2,061	511	
20%	欧州			
	FY19	1,211	324	
	FY20	1,204	328	17% (10%)
	FY21	1,404	364	
20%	米州			
	FY19	1,914	498	
	FY20	1,808	497	22% (15%)
	FY21	2,204	592	
31%	中国			
	FY19	473	103	
	FY20	455	121	30% (18%)
	FY21	594	147	
8%	アジア他			
	FY19	728	178	
11%	アジア他			
	FY20	654	172	18% (12%)
	FY21	770	184	

©TERUMO CORPORATION

7 / 28



地域別売上収益です。

日本では、心臓血管カンパニーのTISやニューロが、他地域に比べてスピードが遅いながらも回復傾向を継続、メディカルケアソリューションズではファーマシューティカルソリューションが伸長する等、前年比でプラス2%と堅調でした。

欧州では、TISや血管事業が牽引した心臓血管カンパニーのみならず、全カンパニーが増収となりました。Q3と比べると、心臓血管カンパニーは、オミクロン株の影響によるQ4前半の症例減が影響して減速しましたが、他の2つのカンパニーは堅調でした。

米州は、TISやニューロ事業が牽引した心臓血管カンパニーのみならず、ここでも全カンパニーが増収となりました。Q3と比べても、欧州のような減速は見られず、好調を持続しました。日本に次いで、米州も初めて2,000億円を超える売上規模となり、米国市場戦略もまさに新たなステージに突入したといえます。

中国も、TIS事業が牽引した心臓血管カンパニー等、全カンパニーが伸長しました。累計で30%の伸長率でした。これはニューロ事業の前年度上期が、その前の期の代理店網整備による一時的な需要増の反動で少し凹んでおり、今年度が実際以上に伸びて見えます。この影響を除くと20%程度の伸長です。またQ3と比べると、春節等の季節要因のため一時的に減速しました。

アジア他は、Q3まで順調に回復してきていましたが、Q4は減速しました。メディカ

ルケアソリューションズと血液・細胞テクノロジーは入札のタイミング等がQ3に寄っていたこと、心臓血管カンパニーは前半やはりオミクロン株の影響を受けました。それでも累計で18%の伸長でした。

C&V:

北米・欧州を中心とした症例数の回復、全事業での売上伸長が継続。
下期は利益へのマイナス影響を、売上の好調と為替のプラス影響により低減

(億円)

	Q4累計			Q4			コメント	Q4累計 売上増減
売上 収益	()内は為替影響除く						TIS : 北米・欧州を中心とした海外の回復が継続。 QoQ (FY21 Q3とQ4の比較) では、Q4前半にオミクロン株 拡大による症例減があったものの、アクセス製品を中心に急速 な回復が見られ、全体で一桁前半のQoQ伸長	+433
	3,506	3,285	3,971					
			+21% (+14%)	871	901	1,027	ニューロ : 北米・欧州を中心とした脳動脈瘤治療の回復が継続。血栓 吸引カテーテルも高成長を維持。QoQでは、Q4に代理店から の受注が集中した中国を除くとほぼ横ばい	+131
						+14%	CV : 北米・欧州における顕著な症例回復に加え、病院の投資再 開により装置売上も好調。QoQでは北米が牽引するも、オミク ロン株拡大の影響を受け、全体で一桁中盤のQoQ減少	+58
調整後 営業利益	869	744	932	181	184	209	血管 : 欧州・北米を中心に回復基調が継続。QoQでは北米が牽引 するも、オミクロン株拡大の影響を受け、全体で一桁中盤の QoQ減少	+64
			+25% (+16%)			+14%	利益 : 中国入札や、在庫水準適正化に向けた生産調整に加え、インフレや 工場操業度の低下によるマイナス影響を受けたものの、売上の好調 と為替のプラス影響により一部相殺	
調整後 営業利益率	25%	23%	23%	21%	20%	20%		

©TERUMO CORPORATION

8 / 28



カンパニー別に、まずは心臓血管カンパニーです。

全体の売上収益は、全事業が売上伸長を続けており、Q4単体が14%、累計は21%の伸長でした。Q3からは、2%伸びました。

TISは北米・欧州を中心に海外が伸長しました。Q4は、前半にオミクロン株の影響が一部であったものの、その後はアクセス製品から急速に回復しました。その結果、Q3と比べても、一桁前半の伸長まで回復しました。日本では、全体の需要減の中、アルチマスターナゴミの新発売があったカーディオロジー製品は伸長しました。

ニューロは、北米・欧州を中心に脳動脈瘤治療の需要が伸び、脳梗塞治療で用いる血栓吸引カテーテルも高成長を維持しました。Q4の実績をQ3と比べると、中国で代理店の受注がQ4に寄ったことが影響して、全体でも二桁の伸長となりましたが、この影響を除くとほぼ横ばいでした。なお、Q4中には、米国で、脳動脈瘤治療用フローダイバーター、FRED Xの1例目使用のニュースがありました。CVも、北米・欧州において症例の回復が顕著で、装置の売上も病院が機器類への投資を再開して好調でした。Q3に比べ、Q4には、北米は伸びを継続しましたが、前半のオミクロン株の影響を受けて全体では一桁半ばの減少となりました。

血管は、CV同様に、北米・欧州において症例が順調に回復しました。Q3に比

べ、Q4には、北米は伸びを継続しましたが、これも同じく、全体では一桁半ばの減少となりました。

利益は、通期では、中国の入札による価格下落や生産調整に加え、期中からはインフレ等による粗利率低下を、増収と為替影響が一部相殺して、調整後営業利益率23%で終わりました。

TMCS: ポンプや輸液関連製品を中心にHCSが牽引するも、
下期は利益に対する複数のマイナス要因が顕在化

(億円)

	Q4累計			Q4			コメント	Q4累計 売上増減
売上 収益	()内は為替影響除く						※HCS: ホスピタルケアソリューション (旧 医療器+医薬品)、LCS: ライフケアソリューション (旧 DM・ヘルスケア)、PS: ファーマシューティカルソリューション (旧 アライアンス)	+73
	1,710	1,755	1,853	432	465	466		
調整後 営業利益	252	257	236	54	53	43	HCS : アジア・日本を中心とした針・シリンジ、輸液関連製品の需要回復や、コロナ対応のためのポンプ需要が牽引し、一桁後半の伸長。感染対策製品は需要が一巡。疼痛緩和製品と癒着防止材は好調を継続。QoQ (FY21 Q3とQ4の比較) では、ポンプが好調に推移したものの、医薬品を中心にオミクロン株拡大の影響に伴う需要減があり、一桁中盤のQoQ減少 LCS : 体温計の需要が一巡するも、血圧計がアジア・日本で好調を継続。QoQではほぼ横ばい PS : CDMOビジネスが牽引し、一桁後半の伸長	+5
	-8% (-5%)	-19%						+20
調整後 営業利益率	15%	15%	13%	13%	11%	9%	利益 : インフレや、複数回に渡るコロナ再拡大による需要減、体温計の需要一巡による製品ミックスの平常化、中国での製造原価に対する為替のマイナス影響を、売上突き抜けにより一部相殺	

©TERUMO CORPORATION

9 / 28



TMCS、メディカルケアソリューションズカンパニーです。

売上収益は、通期では6%の伸長でした。Q4単体は昨年並みで、Q3から横ばいでした。需要の高かったポンプや、抗がん剤投与関連デバイス等の輸液器具の伸びに、ワクチンシリンジの需要が加わったHCS、ホスピタルケアソリューション事業が全体を牽引しました。

HCSでは、コロナ禍において急速に伸びた感染対策製品の需要は一巡した一方、癒着防止材や疼痛緩和の医薬品は伸長を続けました。Q3との比較では、ポンプが大きく伸びた一方で、オミクロン株の影響を受けて、輸液剤やポンプ以外のディスプレイ製品は減速しました。

LCS、ライフケアソリューションは、体温計に代わって血圧計の需要が高く、全体を牽引して+2%で通期を終えました。糖尿病は新製品効果がありましたが、全体は微増でした。Q3単体と比べても、全体は微増でした。

利益は、日本の需要が回復しきらず、加えて体温計需要一巡による製品ミックスの平常化や、インフレの影響、中国元高による製造原価増等のマイナス要因が重なりました。増収効果がこれを多少和らげましたが、足りませんでした。調整後営業利益率は、通期で売上比率13%、前年比マイナス8%で終わりました。

TBCT:

全血採血を中心に、需要回復が継続。下期は利益へのマイナス影響が高んだものの、累計では前年に改善した利益率水準を維持

(億円)

	Q4累計	Q4	コメント	Q4累計 売上増減
	() 内は為替影響除く			
売上 収益	1,072	1,095	1,206 +10% (+5%)	+74
		284	285	304 +7%
調整後 営業利益	151	191	208 +9% (+1%)	+29
		46	47	37 -21%
調整後 営業利益率	14%	17%	17%	
	FY19	FY20	FY21	FY19
	16%	16%	12%	
	血液センター : 全血採血が欧州・北米を中心に回復継続。成分採血製品も中国で好調、コロナ回復期血漿の需要減速の影響を押し返す。QoQ (FY21 Q3とQ4の比較) では北米・欧州が牽引するも、アジア・中国における入札や受注タイミングの影響により一桁中盤のQoQ減少 アフェリシス治療 : 症例数の増加に応じて病院が投資を進め、北米・欧州で二桁伸長を継続。QoQでは中国・アジアでの受注タイミングの影響により一桁中盤のQoQ減少 細胞処理 : 北米を中心にFY20下期以降はコロナ影響から回復し、成長軌道へ 利益 : インフレ、工場における操業度低下の影響や、新規事業の準備費用、生産移管スケジュールの前倒しを受けて減少したものの、売上好調や為替のプラス影響により一部相殺。累計では前年に改善した利益率水準を維持			

©TERUMO CORPORATION

10 / 28

TERUMO

血液・細胞テクノロジーカンパニーです。

売上収益は、通期で10%、Q4単体でも7%伸長しました。Q3と比べると、マイナス5%でしたが、これはアジアや中国の入札や受注タイミングがQ3に寄ったことが影響しています。全体には、全血採血の需要回復や、アフェリシス治療の伸びにより、好調でした。

血液センター向けビジネスは、欧米では全血採血が、中国では成分採血がそれぞれ好調でした。Q4とQ3を比べると、先ほど説明したアジアや中国の売上の波が影響して、Q4が5%程度弱い結果でした。

アフェリシス治療は、欧米で病院が投資を進め、おかげで二桁の伸長を続けました。Q3からQ4にかけては、血液センター向け同様の推移でした。

細胞処理は、コロナ影響によるスローな需要からようやく成長軌道に回帰してきました。

利益は、インフレ等の影響に加え、血漿イノベーションの準備費用や、製造コスト低減を目的とした生産移管の日程前倒し等、ポジティブな内容の費用が先行しています。その中で好調に推移した売上と、為替影響もプラスに働き、調整後営業利益率は通期で17%を維持しました。

なお、Q4中の3月に、血漿イノベーションのRikaがFDAの認証を受けました。非常に良いニュースでした。

FY22業績予想：売上・利益ともに二桁成長

■ コロナ影響からの回復と、各事業の成長ドライバーによる牽引。為替もポジティブに寄与し、売上・粗利益が増加

■ インフレ影響は通期で残るも、終盤には幾分緩和されると期待

() 内は為替影響除く

金額 (億円)	FY21実績	FY22業績予想	増減率
売上収益	7,033	7,750	10% (6%)
営業利益	1,160	1,320	14% (9%)
(%)	16.5%	17.0%	
調整後営業利益	1,344	1,510	12% (7%)
(%)	19.1%	19.5%	
当期利益	888	1,000	13%
為替レート(USD/EUR)	112円/131円	125円/135円	

() 内は為替影響除く

FY22カンパニー別 金額 (億円)	売上収益		調整後営業利益	
	金額	増減率	金額	増減率
C&V	4,445	12% (6%)	1,134	22% (10%)
TMCS	1,923	4% (2%)	223	-6% (1%)
TBCT	1,380	14% (9%)	182	-13% (-3%)

©TERUMO CORPORATION

11 / 28

 TERUMO

それでは、22年度の業績予想について説明いたします。

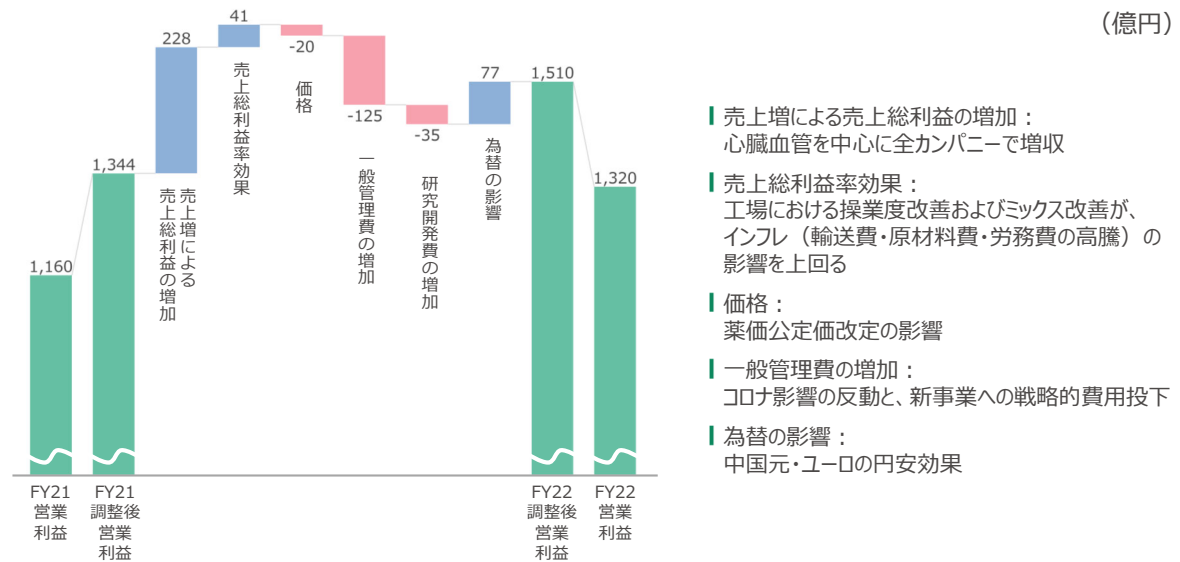
市場については、全体としてコロナ影響から脱して、症例数など需要は回復する前提です。また、市況については、インフレ影響は通期で残るものの、終盤には幾分緩和されると期待しています。

売上収益は、その前提の上で、各事業の成長ドライバーが牽引し、二桁の伸びの7,750億円を目指します。為替もポジティブな影響を継続する見込みです。その結果、調整後営業利益は、こちらも二桁の伸びとなる1,510億円、率として19.5%を目指します。当期利益は初めて1,000億円となります。

カンパニー別の売上収益と調整後営業利益はスライドの下方へ表をまとめました。

なお、GS26の中で新たに設定したROICについては、5カ年のうちに10%以上を目指します。

FY22業績予想 利益増減要因



©TERUMO CORPORATION

12 / 28

TERUMO

業績予想における利益率の増減分析です。

心臓血管を筆頭に、全カンパニーが増収することで、売上総利益の増加は228億円の予想です。製品ミックス改善、加えて工場操業度改善の効果はプラス41億円で、インフレの影響を上回ります。

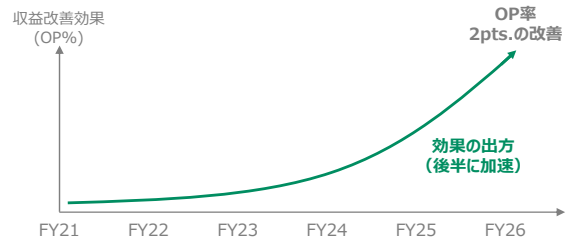
価格は国内の薬価・公定価の影響など、前年度より縮小の見込みです。

一般管理費の増加は、売上拡大に結び付く活動分と、血漿イノベーションの戦略的費用投下であり、成長に必要なポジティブな内容です。

為替の想定レートは、4月度月中の実績を鑑み、ドル125円、ユーロ135円、中国元19.2円としました。為替の影響は、全体では、ドルがニュートラルで、ユーロ・中国元の円安効果により、プラスとなりますが、カンパニーによって、このプラスマイナスは異なります。

FY22における収益改善の取り組み

4つの領域で活動を本格展開



生産技術のベストプラクティスを横展開、新興国生産拠点での生産性を改善

→ FY22: 現生産の工程分析、製造アーキテクチャー解析を行い、改善対象を選定
FY23: 生産性改善の取り組み開始



USにおける物流ネットワーク最適化に向けたDistribution Centerの集約・開設を検討

→ FY22: 各事業の物流網の把握、ヒートマップ作製で最適ロケーションの確定
FY23以降: 物流費率の削減に寄与



直接材の価格の最適化、安定供給に向けた取り組み

→ FY22: リスク分析・BCM設計・進捗管理を調達BCMポリシーとしてグローバル展開
FY23: 代替原材料の検討や、精度向上による無駄排除で、原材料費の削減を目指す



間接部門のGBS化を検討
拠点オフィスの集約、保険の包括契約等、事業横断の活動

→ FY22: 一部経理業務のシェアード化を開始
FY23以降: シェアード業務拡大に伴い販管費率の削減に寄与

©TERUMO CORPORATION

13 / 28

さてGS26で掲げた、全社で取り組む収益改善について、22年度は、生産、調達、ロジスティクス、間接部門の4つの領域で活動を本格展開します。生産では改善すべき対象の選定、調達では直接材の価格の最適化と安定供給確保のための取り組みです。ロジスティクスにおいては、米国内流通拠点の集約、間接部門の効率化では拠点オフィスの集約や、保険の包括契約、さらに事業横断でShared Service化に取り組むなどの具体的テーマに取り組めます。そして、この効果ですが、GS26での取り組みとなりますのでその後半にかけて効果の出現が加速していくこととなります。したがって、今年度より、この進捗も決算時にお伝えしていきたいと思っております。

配当案および自己株式取得

■ 配当案：21年度 年間34円（従来予想から2円増配）

■ 安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指す

■ 22年度は年間36円とし増配維持

	FY21実績	FY22予想
当期利益（億円）	888	1,000
EPS（円）	117	134
配当案/株	34.0円 中間16.0 期末18.0	36.0円 中間18.0 期末18.0
配当性向	28.9%	26.9%

■ 自己株式取得枠設定：500億円

■ 今回取得する自己株式は消却することを決議

21年度の配当は、期中に2円増配の提案を行いましたが、それを加えて年間34円と致します。

22年度は年間36円として増配を維持、引き続き安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指します。

そして、この度、500億円を上限に自己株式取得枠を設定いたします。取得した株式は消却を行うことも決議しました。

製品パイプラインとトピックス

※ C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー、HCS: ホスピタルケアソリューション、LCS: ライフケアソリューション

主要製品の発売・適応取得状況

領域	一般名	製品名	FY21まで	FY22	FY23以降
TIS	薬剤溶出型冠動脈ステント	Ultimaster Nagomi	日本で販売	欧州で発売	アジア・中南米で発売
ニューロ	血流改変ステント	FRED X	欧州・米国で販売	米国で拡販、地域拡大	
血管	胸部大動脈ステントグラフト	Relayシリーズ	欧州で販売、米国・日本で瘤の適応取得	米国で解離と外傷性損傷、日本で解離の適応取得	品種追加、RelayBranchの臨床試験を実施
HCS	汎用輸液ポンプ	テルフュージョン輸液ポンプ18型	日本で販売	欧州・中南米で発売	アジアで発売
LCS	パッチ式インスリンポンプ	メディセーフウィズシリーズ	現行モデルを日本・欧州で販売	改良品を日本で発売	Diabeloop社とのAIDシステム連携、地域拡大検討
TBCT	細胞増殖システム	Quantum Flex	Quantumをグローバルで販売	品種追加としてQuantum Flexを発売	細胞処理事業で二桁成長を目指す



「FRED X」



「Thoraflex Hybrid」



「Rika」

主なトピックス

- ・ 全社： 2040年カーボンニュートラル宣言を発表、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に賛同
- ・ C&V： ハイブリッド型オープンステントグラフト「Thoraflex Hybrid」が米国での販売承認を取得
- ・ TMCS： Glooko社とインスリンポンプの新たなデータ共有ソリューションを開発
- ・ TBCT： 原料血漿採取システム「Rika」が米国FDA認証を取得

©TERUMO CORPORATION

15 / 28

TERUMO

最後に、主要製品の発売・適応取得の状況と、主なトピックスです。21年度までに販売を開始した製品も、今後地域の拡大や適応拡大により、22年度以降もさらなる業績拡大を期待しています。全社のトピックスは、2040年カーボンニュートラル宣言の発表を取り上げました。以上で、決算説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

売上明細 (地域別・事業別)

2021年度 セグメント別売上収益

Revenue by Segment for FY2021

(百万円/ millions of yen)

		FY2020							FY2021							増減率 % to total							
		日本 JPY	海外 Overseas	欧州 Europe	米州 America	中国 China	アジア Asia and others	合計 GW	日本 JPY	% of	海外 Overseas	% of	欧州 Europe	% of	米州 America		% of	中国 China	% of	アジア Asia and others	% of	合計 GW	% of
心臓血管 カンパニー	TIS	11,317	189,280	52,996	84,648	29,180	22,464	229,638	32,110	2.2%	331,837	22.2%	62,182	19.2%	102,212	24.2%	55,048	21.2%	27,058	20.6%	263,847	19.6%	17.2%
	ニューロバスキュラー	4,880	40,126	13,817	17,472	4,008	3,857	45,816	5,446	11.6%	52,708	11.3%	16,264	10.0%	22,441	20.4%	9,322	8.6%	4,346	12.7%	68,155	20.2%	8.9%
	カーディオバスキュラー	11,402	30,180	5,239	18,920	1,310	4,509	41,581	10,806	25.2%	36,543	21.1%	6,234	20.9%	23,114	22.2%	2,001	32.2%	5,093	12.9%	47,359	13.9%	6.7%
	血管	2,587	18,735	10,469	5,938	1,140	987	21,312	2,780	7.5%	24,826	12.0%	13,712	11.0%	8,488	43.1%	1,326	14.7%	1,148	65.4%	27,677	20.0%	3.9%
Cardiac and Vascular Company		50,208	278,341	82,523	126,978	37,019	31,818	328,540	51,144	1.9%	345,986	24.2%	99,796	20.9%	159,570	22.7%	48,942	32.2%	37,677	18.4%	397,130	20.9%	26.2%
メディカルケア ソリューションズ カンパニー	ホスピタルケアソリューション	97,503	23,208	2,539	6,993	1,262	12,813	129,712	100,303	2.9%	27,737	10.5%	2,728	6.0%	7,996	21.3%	1,370	8.5%	12,611	21.8%	128,041	6.1%	18.2%
	ライフケアソリューション	23,219	2,881	798	11	976	1,096	26,201	22,049	-1.8%	3,740	20.7%	822	3.0%	38	224.0%	1,078	10.3%	1,891	64.2%	26,699	1.0%	3.8%
	ファーマシューティカルソリューション	18,216	10,313	6,903	2,448	183	778	28,630	19,482	6.4%	11,121	7.8%	7,421	8.4%	2,573	5.1%	217	18.4%	849	9.1%	30,603	6.9%	4.4%
Medical Care Solution Company		139,130	36,405	10,241	9,653	2,422	14,688	175,545	142,735	2.6%	42,599	17.0%	11,063	8.0%	10,608	17.2%	2,666	10.1%	18,262	24.2%	185,335	5.6%	26.4%
血液・細胞 テクノロジー カンパニー	血液センター	11,549	69,682	21,376	27,273	5,242	15,791	81,231	11,407	-1.2%	77,190	10.0%	22,722	6.3%	30,216	11.2%	6,372	21.3%	17,786	12.6%	88,597	9.1%	12.0%
	アフェンシス治療薬	473	20,075	3,381	11,239	690	2,823	29,508	433	-4.4%	22,928	14.5%	3,946	12.2%	12,989	15.7%	1,062	53.8%	2,920	4.3%	23,392	14.1%	3.9%
	細胞治療	151	7,592	943	6,255	149	248	7,750	171	13.3%	8,424	10.9%	896	-3.2%	6,503	10.4%	306	103.8%	313	26.7%	8,596	10.9%	1.2%
Blood and Cell Technologies Company		12,154	97,336	27,624	44,765	6,082	18,864	109,491	12,012	-1.2%	108,573	11.3%	29,558	7.0%	50,221	12.2%	7,741	27.3%	21,052	11.0%	120,586	10.1%	17.1%
その他	Others	256	-	-	-	-	-	256	251	-0.1%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	251	-0.1%	-0.1%	
合計 Total		201,788	412,084	220,289	280,798	45,525	65,372	613,842	206,143	2.2%	497,159	20.6%	140,417	16.0%	220,400	21.9%	59,350	30.4%	76,991	17.8%	703,303	14.0%	100.0%
売上比率 % to Total		21.9%	67.1%	19.6%	29.2%	7.4%	10.6%	100.0%	29.2%	70.7%	28.0%	21.3%	8.4%	10.9%	100.0%					100.0%			

(原币平均為替レート)

(Average Exchange Rates)

(USD)=¥106.10

(EUR)=¥123.76

(USD)=¥112.39

(EUR)=¥130.55

* FY2021は「中国」の売上を明示しているため、「アジア他」から「中国」の売上を削りています。

* Sales in China is not included in "Asia and others" from this reportable segment.

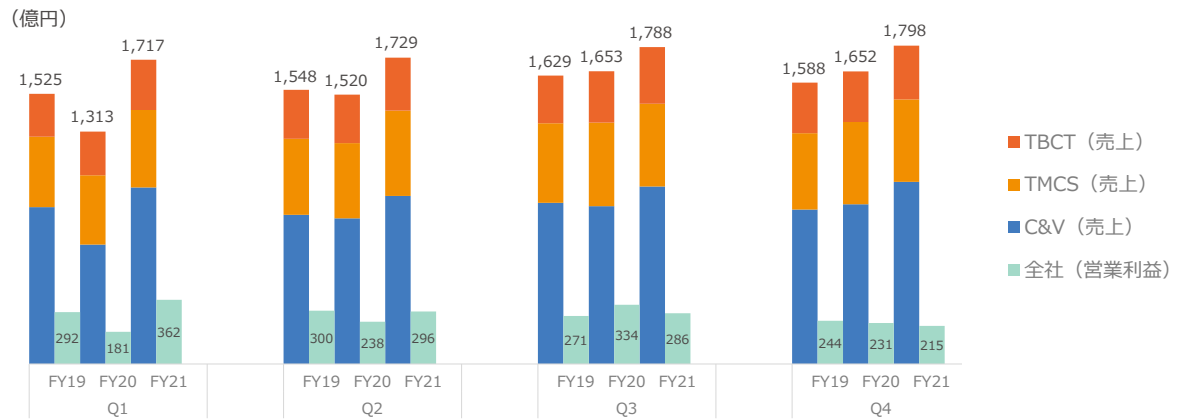
* 2022年度より、従来の「メディカルケアソリューションズ」のセグメント名称を「メディカルケアソリューションズカンパニー」に変更しています。なお、サブセグメントについては、従来の「医療機器事業」「医薬品事業」「ホスピタルケアソリューションズ」に、DMヘルスケア事業がライフケアソリューションズに、アジアの医薬品事業がファーマシューティカルソリューションズに変更されています。また、2020年度は2021年度に引き継いで、変更後の名称で記載しています。

* Effective fiscal 2022, the segment name of the former "General Hospital Company" has been changed to "Medical Care Solution Company". As for sub-segments, the former "General Hospital Products" and "Pharmaceutical" have been combined into "Hospital Care Solutions", "DM and Consumer Healthcare" has been renamed "Life Care Solutions", and the "Alliance" has been renamed "Pharmaceutical Solutions". In accordance with this change, the fiscal 2020 and 2021 figures are also listed under the new names.

売上収益・営業利益の四半期推移

■ 売上収益： Q4実績はFY20比9%伸長、FY19比は心臓血管が18%伸長と牽引し、全体でも13%伸長。
為替（ユーロ等）もプラスの影響

■ 営業利益： Q4実績はインフレや工場における操業度低下の影響を受けたものの、売上好調と為替の
プラス影響により一部相殺



P&L（四半期推移）

（億円）

	FY20 Q4 (1-3月)	FY21 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	
売上収益	1,652	1,717	1,729	1,788	1,798	
売上総利益	854 (51.7%)	943 (54.9%)	920 (53.2%)	926 (51.8%)	905 (50.3%)	
一般管理費	488 (29.5%)	465 (27.1%)	490 (28.4%)	507 (28.4%)	528 (29.4%)	
研究開発費	132 (8.0%)	117 (6.8%)	130 (7.5%)	128 (7.2%)	144 (8.0%)	
その他収益費用	-2	1	-3	-5	-18	
営業利益	231 (14.0%)	362 (21.1%)	296 (17.1%)	286 (16.0%)	215 (12.0%)	
調整後営業利益	274 (16.6%)	402 (23.4%)	339 (19.6%)	330 (18.5%)	273 (15.2%)	
四半期	USD	106円	110円	110円	114円	116円
平均レート	EUR	128円	132円	130円	130円	130円

©TERUMO CORPORATION

19 / 28

 TERUMO

販管費（四半期推移）

		(億円)				
		FY20 Q4 (1-3月)	FY21 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
	人件費	240	249	249	255	256
	販促費	43	30	40	44	45
	物流費	37	38	39	39	41
	償却費	49	48	50	51	54
	その他	119	99	112	118	132
	一般管理費計	488	465	490	507	528
	(%)	(29.5%)	(27.1%)	(28.4%)	(28.4%)	(29.4%)
	研究開発費	132	117	130	128	144
	(%)	(8.0%)	(6.8%)	(7.5%)	(7.2%)	(8.0%)
	販管費合計	620	581	621	635	672
	(%)	(37.5%)	(33.9%)	(35.9%)	(35.5%)	(37.3%)
四半期	USD	106円	110円	110円	114円	116円
平均レート	EUR	128円	132円	130円	130円	130円

販管費（前年同期比）

（億円）

	FY20 Q4累計	FY21 Q4累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY20 Q4	FY21 Q4	増減	増減率
人件費	928	1,010	82	9%	4%	240	256	16	7%
販促費	128	160	31	24%	20%	43	45	2	6%
物流費	144	157	14	10%	6%	37	41	4	10%
償却費	191	203	12	6%	3%	49	54	5	11%
その他	404	461	57	14%	10%	119	132	12	10%
一般管理費計	1,795	1,991	196	11%	6%	488	528	40	8%
(%)	(29.2%)	(28.3%)				(29.5%)	(29.4%)		
研究開発費	491	518	27	6%	2%	132	144	12	9%
(%)	(8.0%)	(7.4%)				(8.0%)	(8.0%)		
販管費合計	2,286	2,509	223	10%	5%	620	672	51	8%
(%)	(37.2%)	(35.7%)				(37.5%)	(37.3%)		

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY20 Q4累計	FY21 Q4累計	FY20 Q4	FY21 Q4
営業利益	984	1,160	231	215
調整① 買収無形資産の償却費	146	161	38	42
調整② 一時的な損益	29	24	5	16
調整後営業利益	1,159	1,344	274	273

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY21 Q4累計	FY21 Q4
事業再編費用	16	10
その他	8	6

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

	FY18	FY19	FY20	FY21	FY22予想
設備投資	608	895	772	692	900
償却費	440	477	484	532	635
買収無形償却費	146	157	146	161	173
それ以外	294	320	338	371	462

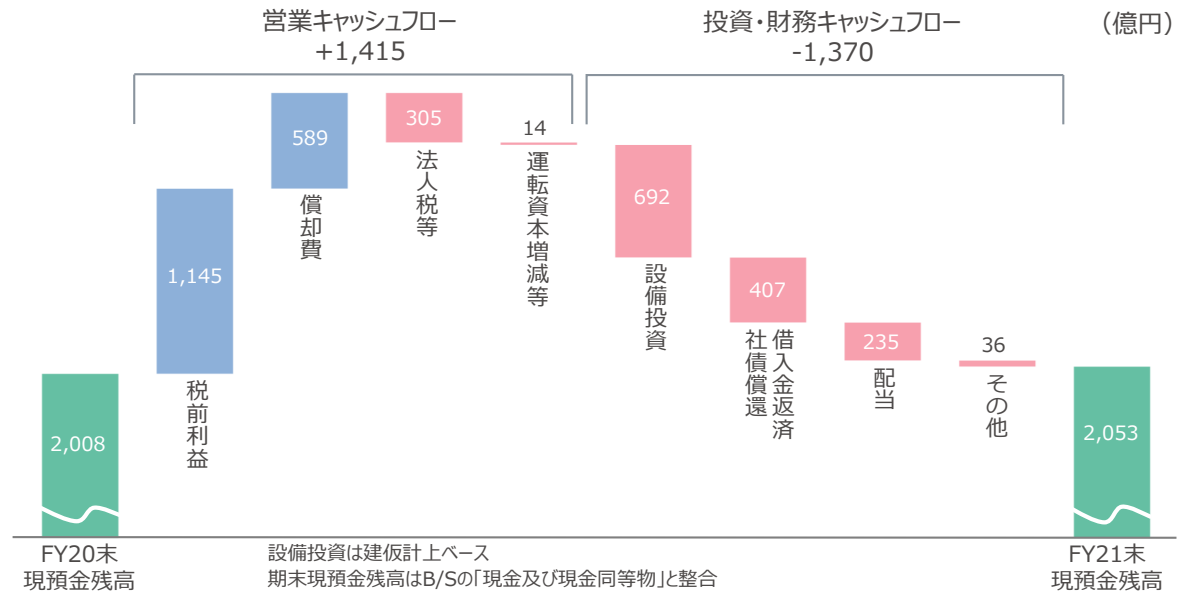
設備投資は建設仮勘定計上ベース、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

■ FY21実績（692億円）：主にTIS、ニューロ、PS、血液・細胞テクノロジー等の増産設備、生産スペース、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

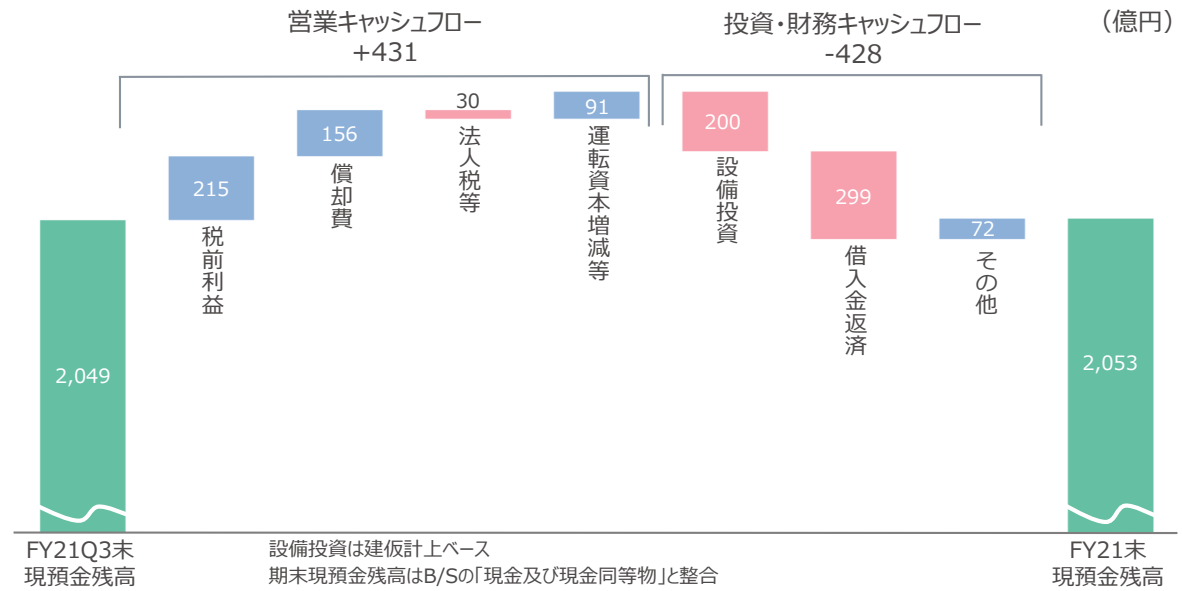
■ FY22は上記案件の投資を継続実施

	FY18	FY19	FY20	FY21	FY22予想
研究開発費	477	506	491	518	580

キャッシュフロー（Q4累計）



キャッシュフロー（Q4）



FY21 為替影響の内訳（フロー・ストック）

■ 対FY20 為替影響 +71億円： Q3累計+71億円から変化なし

■ フロー 年間+87億円（Q4は+18億円）：ユーロ高・中国元高によるプラス効果

レート（円）	FY20 期中平均	FY21期中平均	差異
EUR	124	131	7
中国元	15.7	17.5	2

■ ストック 年間-16億円（Q4は-18億円）：棚卸資産未実現利益消去への為替影響

・ Q3と比べてQ4に急激な円安が進行、期中平均と期末日レートの差が拡大 → マイナス影響

レート（円）	FY21 Q3 期中平均	FY21 12月末	差異		レート（円）	FY21 Q4 期中平均	FY21 3月末	差異
USD	114	115	1	▶	USD	116	122	6
EUR	130	131	0		EUR	130	137	6

為替感応度

1円の円安に対する年間影響額

(億円)

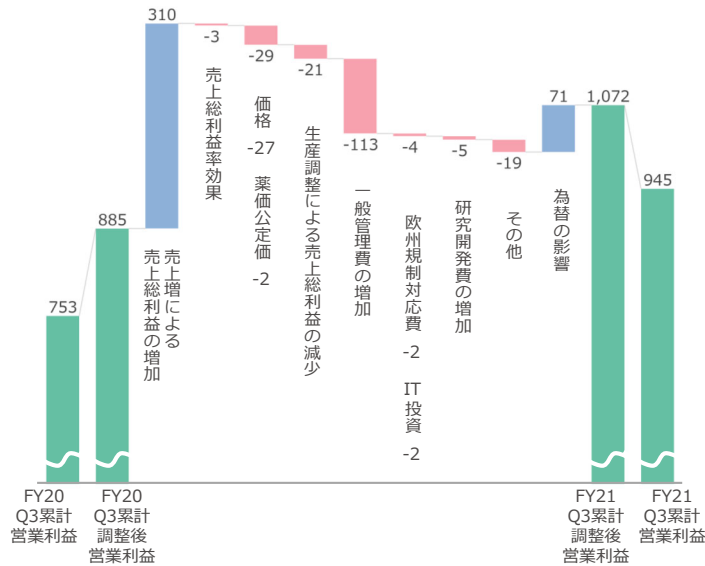
	USD	EUR	中国元
売上収益	17	8	35
調整後営業利益	0	5	15

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	中国元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	23	36

調整後営業利益増減分析（Q3累計）

（億円）



- 売上増による売上総利益の増加：
コロナ影響を受けたFY20 Q3累計との比較では、
心血管を中心に全カンパニーで増収
- 売上総利益率効果：
インフレ（輸送費・原材料費・労務費の高騰）と工場
における操業度低下のマイナス影響が、TISを中心とし
た心血管の売上増によるミックス改善効果を上回る
- 価格：
主に中国でのTIS製品入札による価格下落
- 一般管理費の増加：
コロナ影響で費用進捗の遅れたFY20 Q3累計との
比較では大きく増加
- 為替の影響：
主に中国元・ユーロがフローに影響。ストックへの影響は
軽微

